

人生の意味を求めて

平等と共同体感覚：1988 年 ICASSI(ギリシャ)講演録より
エリック・ブルーメンタール(Erik Blumenthal)
大竹優子(大阪) 訳

要旨

キーワード：

このお話は、宗教的な信念に基づいた私の私的な考えを反映するものです。「人生の意味を求めて」の話題でお話するために、あらかじめ明らかにしておいたほうが良いことがあると思われる。それは、どの人生のことが言われているのか？ ということです。私の考えでは、私たちはみなそれぞれの第二の人生を生きているところです。第一の人生は、すでに過去のものとなっています。それは母親のおなかの中にある 9 か月間のことなのです。この 9 か月で最初の人生は終わり、私たちは、いま生きている第二の人生に新しく生まれ出でるといふわけです。

最初の 9 か月の主な目的は、生きること、成長すること、感じること、そして、母親と一緒にいることです。第一の人生の意味は、第二の人生への準備としてボディを発達させることにあります。たとえば私たちは、最初の 9 か月には必要とされない目や耳をこの期間に発達させる、という風です。しかしながら母親のおなかの中でどんな様子をしていようとも、私たちはすでに人間なのです。

成長途上にあるひとりの人間がおなかの中にいるということに気付いている母親は、赤ちゃんに向かって話しかけたり、歌い、音楽を奏で、また赤ちゃんのためにお祈りをしたりします。そして、その子どもへの純真な愛を育みます。しかし私は、これだけではまだ足りないと思っています。母親がこれから生まれる子どもとの絆を結ぼうとして行動するのに父親も参加すべきだし、姉や兄もそうすることが必要だと思うのです。なぜなら、そうすればその子が生まれ落ちたその時から、愛や温かさ、家族への所属を感じられることなのでしょうから。

この第二の人生について考え始めたとき、私はすでに過ごしてきたこの人生の 74 年間について、ある計算をしました。これがその結果です。

約 20 年間、私は眠っていました。

約 20 年間、私は働いてきました。

約 7 年間、私は家族や友達と一緒に過ごしました。

約 7 年間、私は学び、読書をしています。

約 5 年間、私は飲んだり食べたりしています。

約 5 年間、私は何もしてませんでした。病気だったり待ったり、怒ったり、不必要に心配したりしました。

約 3 年間、私は自分の世話をし、トイレに行き、服を着替えたりしました。

約3年間、私は歩いていました。

約2年間、私は運転し、そして

約2年間、私は考え、祈り、瞑想をしてきました。

合計で、74年です。

さて、第一の人生に加えて、第二の人生の主な機能は何なのでしょう？ いくつかあげてみましょう。一つは、外界を五感で知覚すること、すなわち視る、聴く、嗅ぐ、味わう、そして触ること、つまりボディのレベルで感じることです。それから、統覚といわれる内側の感覚があります。つまり想像、思考、理解、記憶のことです。そのほかの機能としては、愛、所属、精神レベルでの感覚、生殖、運動、話すこと、決断すること、共同体感覚を鍛えること、より意識的になり、より大きな勇気をもつことなどがあります。スピリチュアルなレベルでの機能には、信じること、直観すること、そして夢を見ること、があります。

私の意見では、人(person)はスピリチュアル化を通してのみ、人間(personality)になると考えます。ですから私は、第二の人生の意味は、第三の人生すなわちスピリチュアルな人生のための準備として魂を育てることにあると考えているのです。いま述べたスピリチュアルなレベルの機能は、そうでもなければよくわからない第三の人生について、あるアイデアを与えてくれます。つまり、夢の機能について考えてみてください。夢の中では私たちは、空間や時間、体の機能からも自由になるでしょう。〔スピリチュアルな機能というのはそういうようなものなのです。〕

ここで大きな問題となるのは、「スピリチュアル」とは何を意味するのか、スピリチュアリティとは何か？ ということです。スピリチュアリティとは、まだ私たちにとって十分に定義できない言葉です。ですから、ほかの方向から定義してみましょう。

スピリチュアリティとはエゴセントリシティ(egocentricity、自己執着)の反対である。

「スピリチュアル化」とはエゴセントリシティからスピリチュアリティへの過程あるいは道である。

私たちは第二の人生の意味を特徴づけるといわれているたくさんの考え方や方法を見つけ出すことができますが、まずその前に、なぜ今の時代にエゴセントリシティが「普通」に見えるのかを検討してみましょう。私たちは勇気くじきの社会に暮らしています。私たちの社会では、親は知識が不足しているために、子どもたちが5～6歳になるまでに持てる力のすべてを持ってその子たちの勇気をくじいてしまいます。この後、われらが子どもたちは、「学校」と呼ばれるあの勇気くじき道場に通います。そしてさらに、大学という上級道場でも、あるいはもっと一般的には、社会全体においても、勇気くじきは続きます。そこでは人々がお互いを仲間の人間や兄弟・姉妹としてではなく競争者とみなしているのです。おそらく、十分な勇気を持ち続けていられる人は、そう大勢は残らないでしょう。

自分自身のことを信じられなくなると、人々はその地位や価値を気にするようになります。彼らは所属していると感じられなくなり、エゴの周りをうろろうさまよい、自分を他者と比べるようになります。これが、私がエゴセントリックと呼んだもので、エゴティズム(egotism、利己主義)とは違うものです。

とはいえ私たちはこの状況に勇気をくじかれる必要はありません。もし社会の年齢を一個人の年齢と比べたら、いまの社会の年齢は、そうですね、18歳よりも年を取ってはいないでしょう。これは、私たちの社会がまだ発達初期にあるにすぎないということです。

つまり、さまざまな学派の多くの心理学者が言うように、現代人はその潜在能力を10～15%しか使っていないのだと理解することができるのです。社会としては、私たちは実際になんと若いことか。たとえばそれは、イエス・キリストが生きていた時代から私たちまでは、67世代も離れていないことを理解するとわかります。一般的には一世代の中の短い期間で私たちはスピリチ

ユアルにはなれないものです。私たちは辛抱強くあらねばなりません。さらに何百年、何千年後の人々もまた、発展したいと思うことでしょうか！ 自分たち人間が、より意識的、論理的な現代的な考え方になってきたのはたった数世紀前にすぎないのだということを、私たちは理解することが必要なのです。

私たちはまだ発達の初期の段階にあるという事実に加えて、別の視点をアーノルド・トゥインビーが示しています。彼は、私たちの科学技術における成功は目覚ましく進んでいるが、魂の発達はまだ始まったばかりにすぎない、と指摘しています。私たちが愛したり憎んだりすることは、古代バビロニア人たちが共同生活の中で愛したり憎んだりしてみせたこととたいして変わりがないのです。

スピリチュアリティとは何を意味するのか？

スピリチュアリティをより深く理解するために、エゴセントリックな人とスピリチュアルな人を比較して、具体的に例をあげてみましょう。

今の時代において、エゴセントリックな人はものごとを「優劣」に換算して考えますが、スピリチュアルな人は共同体感覚と神の愛を人生のものさしにします。

エゴセントリックな人はしばしば原因と言いわけを探しながら過去の中に生きていますが、スピリチュアルな人は過去の扱い方はたった二通り、そこから学び、そして忘れるものだと知っています。スピリチュアルな人は現在に生き、未来を楽しみにし、自分を目標に向かわせます。

エゴセントリックな人は悲観論者、スピリチュアルな人は楽観論者です。

エゴセントリックな人はその人生を意味のないものとみなしますが、スピリチュアルな人は人生を意味にあふれたものとして経験します。

エゴセントリックな人は正しくありたいと欲し、それゆえけんかや闘争などたくさんのトラブルに巻き込まれますが、スピリチュアルな人は仲間たちとともに平和に生きたいと思えます。

エゴセントリックな人はトラブルメーカーで、非難したり、他者の間違いや失敗、欠点を探しますが、スピリチュアルな人は他者のポジティブな面にかかわります。これは人とその行為とを分けて考えるということです。こうすることによって、スピリチュアルな人には他者を兄弟か姉妹、あるいはともに生きる者として愛しても、その人の誤った行為を愛さないということができるようでしょう。このような考えかたは他の人たちと平和の中で生きるために、大きな助けとなり得ます。この方法は、子どもが人生を始めた時から教育の中で使われるべきだと思います。

エゴセントリックな人は他者に対して怒りやすいので、他者への反応としての言葉や振舞い、行動が衝動的ですが、スピリチュアルな人は自発的に他者を援助しようという思いをもって行動します。

私たちが生きている現代の社会では、人は一般に短所や間違い、悪い行いを隠しがります。同時に自分のした善い行いを見せたがります。聖書にはすでにこのことが記されています。祈り、断食を続け、貧しいものに施しをする人が、人々がそれを見て彼のことを善良で敬虔な人と考えることを求めているならば、そのことがすでに報いとなっているのです。“Er hat seinen Lohn dahin.”（「彼らは既にその報いを得たり」：[マタイによる福音書 6章2節より]）これはスピリチュアルに発達した人、善い行いをしてもそれを隠し、自分の欠点をとにかく自分で認める人、とは対照的です。このようになると良いところは強められてその人の一部として保たれ、悪いところは自然に落とされていきます。人のありようはその一部として何を内に持っているかによりますから、スピリチュアルな人はますます善い行いができるようになるわけです。彼はだんだん

間違いが少なくなるのですが、一方エゴセントリックな人は自分の間違いを隠し、その一部として悪いところを保ち続けるようになります。自分がどんなに善い行いをしたかを示すことによってエゴセントリックな人は「善さを取り除き」、そうしてだんだんと善い行いができなくなっていくでしょう。

この二つのタイプの人たちのもう一つの大きな相違点は、エゴセントリックな人は未発達であるがゆえに感情の奴隷となりますが、スピリチュアルな人は感情の支配者となるということです。感情は、特にそれが負の感情であったり衝動的な反応の結果であった時には、さまざまな点で私たちの共同生活を乱します。共感や愛といった正の感情とは対照的です。他者にただ「反応する」ことは私たちがごく幼い時から学んできたことです。これらの点で、スピリチュアルな人はより人間らしくあります。なぜなら彼は正しいと決断した行動でもって反応するからです。「感情的」な人々は他者に決めてもらおうとしますが、そのことに気づいてはいないのです。

エゴセントリックな人が社会を乱すような振舞いをするときはいつでも、その人は無意識のうちに次の五つの当座の目標を追いかけています。それらは弁解、注目、優越、復讐、そして引きこもりです。スピリチュアルな人は長期的な目標を目指します。彼らは、貢献し成長し、そして神の近くへ動いていこうとします。

スピリチュアルな人の人生は秩序と個人の計画によって治められますが、エゴセントリックな人の人生は多くの面で無秩序に見えます。

エゴセントリックな人は疑いに満ちあふれていますが、スピリチュアルな人は信念、信頼、確信といった、すべての重要な人間の機能を使います。彼は人生を、他者を、社会を、そして最後にして重要なことに、彼自身を、信頼しているのです。

どのような状況下でも、スピリチュアルな人は自分自身に問いかけます。「私にできることは何？」それにひきかえエゴセントリックな人は、他者が何をすべきか、すべきでないかを、とてもよく知っています。エゴセントリックな人は、物や他者に対してひどい扱いをしますが、スピリチュアルな人は正しくものを扱ったり他者に接したりする方法を見つけ出そうとします。

エゴセントリックな人は外側に自由を求めますが、自分自身をどんなに他者に依存させているかということには気付いていません。スピリチュアルな人は次第に、決して尽きることのない内なる自由を手に入れます。

新たな課題に直面したとき、エゴセントリックな人はそれを「難しい」とみなす傾向がありますが、そうすることが自分を動けなくしてしまっているのだとは知りません。スピリチュアルな人には新たな課題が、その人がより大きくスピリチュアルに成長するのを手伝ってくれる、素晴らしいものに映ります。

スピリチュアルな人が従って生きている基本的原則のうちのひとつに、「どちらも」というのがあります。これはたとえば、二つの対立する意見の両方が正しいこともありうる、というようなことです。これとは対照的に、エゴセントリックな人は「どちらか」の原則に従います。つまり、異なる意見のうちのひとつだけが正しい、というようなことです。

エゴセントリックな人は、人を喜ばせて有名になりたがる人が多いですが、スピリチュアルな人は、すべての人を喜ばせるなんて現実的でないと感じています。このように、彼らは与えられた状況のなかで得られるものに満足しています。スピリチュアルな人は本当に自分の存在を信じ、自分を信頼していますが、エゴセントリックな人は自己賛美の傾向があります。

エゴセントリックな人の決断はしばしば無意識に行われますが、スピリチュアルな人は決断するときに次第に意識的になってきます。

エゴセントリックな人は「よく知って」いますが、スピリチュアルな人は「よく行い」ます。

エゴセントリックな人は周囲より優位にたち、完全主義者ですが、スピリチュアルな人は他者

に奉仕し、不完全である勇気を持ちます。エゴセントリックな人は間違いをおそれますが、スピリチュアルな人は大きな間違いを小さなものにします。

エゴセントリックな人は「快感原則」に従って行動し、やりたいことだけをやりたがります。しかし、やらなければならないことをやりたいと思うことが、スピリチュアルな成長のしるしなのです。

私たちの生きるこの時代は、古い先入観に固執することのない新しい考え方を提示してくれています。人々の社会的平等、協力、自己責任、共同責任、そして他者の幸福に貢献すること、これらの全てが必要とされているのです。よりスピリチュアルであるということは、それゆえまた、物質社会の中でより利他的に、富や名誉に対してより恬淡に、みんなをもっと愛し、すべての生き物に対してより親切になり、より親しみのある感情を持ち、すべての小さいものや弱いものに対してもっと注意深くあり、そして、より客観的で、論理的で、寛容になることを意味しているのです。

まとめと結論

この第二の人生の意味は、より意識的でスピリチュアルになることで、次の第三のスピリチュアルな人生への準備として魂を成長させることにあるのだとわかりました。この自己責任とともに並んでわれわれの共同責任、すなわち連帯と平和に向かっての人類の成長が存在します。最後にして重要なことには、目標は神を知ること、神を愛し、信じることです。すべては個々人のスピリチュアルな変化にかかっています。結論を言わせていただくと・・・

幸せになりたいですか？ ならば、人々を幸せにしましょう。愛されたいですか？ ならば、人を愛しましょう。尊敬してもらいたいですか？ それでは、人を尊敬しましょう。価値を探すのなら、出来事に意義を見つけましょう！

人生の意味を求めることなかれ。人生の意味はあなた次第なのだから。

演者について

演者エリック・ブルーメンタール(1914 ~ 2004)はスイス、チューリッヒアドラー研究所の指導者であり、[当時の]西ドイツ、イムメンシュタート/ボーデンゼーのセラピストでした。彼は多年にわたり国際レベルで宗教的研究のリーダーとして活躍しており、その人生の大部分はアドラー心理学とスピリチュアリティとを関連付けることに捧げられました。この領域において、広範囲の著作があります。

訳者コメント

この講演は、1988年7月にギリシャのキオスで開催された ICASSI にて、「平等」をテーマとして行われた十講演のうちの一つにあたります。訳文中〔 〕記号内は、訳者が補った箇所を示します。

聖書の引用部分についてのご指導及びご監訳をいただいた野田俊作先生、翻訳にご協力いただ

いたダイアン・リマーさんに深く感謝いたします。

更新履歴

2013年5月1日 アドレリアン掲載号より転載